

令和6年度第2回交野市総合教育会議 結果概要

日時 令和6年7月24日（火）16:00～17:00

場所 本庁別館3階 中会議室

出席者 山本市長

北田教育長、村橋教育長職務代理者、長谷川教育委員、伊丹教育委員、中山教育委員、
般谷教育委員、甲斐教育委員

事務局 良副市長

大湾教育次長（兼 教育総務室長）

学校教育部：和久田部長、内山部長、井上次長

生涯学習推進部：西岡部長、本多次長

教育総務室：堤下室長代理

企画財政部：苗村部長、山埜次長

（秘書政策課）松浦課長、奥田課長代理、木村、小寺

傍聴者 3名

案件 1. 教育大綱について
2. その他

資料 1. 教育大綱改定のポイント
2. 教育大綱案

【開会】

○山本市長

皆さま、こんにちは。本日は令和6年度第2回交野市総合教育会議を招集しましたところ、皆様におかれましてはご多用のところにもかかわらず、ご参集賜りましたこと深く感謝申し上げます。

先日開催しました第1回総合教育会議の中で、今後、次期教育大綱について協議調整していくとお伝えしましたが、本日は、そのたたき案をお示しさせていただき、考え方や内容について、意見交換したいと考えています。

会議に先立ち、本日3名の傍聴希望がでており、「交野市総合教育会議における傍聴に関する取扱い要領第2条」に規定される定数内ですので、傍聴いただいていますことをご報告します。

それでは、ただいまより交野市総合教育会議を開催します。

まず、本日の会議資料につきまして、事務局より説明します。

○事務局

配布資料の確認

【案件協議】

案件1 教育大綱について

○山本市長

現行の教育大綱については、令和7年3月末に一つの区切りとなり、令和6年度中に改定の協議を進めていく必要があります。また、今後、常任委員会での所管事務調査やパブリックコメントを予定しています。本日はたたき案をお示し、考え方や内容についての意見交換を考えています。

なお、教育大綱の対象期間については、文部科学省において5年程度とされており、5年でなければならない意味ではありませんが、今の教育大綱も5年で規定しており、過去の私の経験も踏まえ、今回は2年にしたいと思っています。なぜ、5年を2年にするかと言いますと、教育長の任期は3年、教育委員の任期は4年、市長と議員の任期は4年です。市長が私に代わってから約2年が経過しましたが、教育大綱については過去のままです。

同じように5年で改定をしてしまいますと、令和7年度当初では私の任期が残り1年半であるにも関わらず期間が5年間となり、次の選挙で選ばれた市長の際に、おおよそ3年半について、私が作った教育大綱がそのまま残るということになります。教育大綱としてそれが良いのかどうかという考え方もあると思っていますので、この際、教育大綱の期間も市長の任期と一定整合性を持たせた方が良いと考えているところです。

市長任期とイコールで教育大綱の期間を定めるのはどうかと考えたところですが、就任直後もしくは次の日に教育大綱を改定となると、教育委員や議会の意見を聞くことやパブコメを実施する期間もほぼないということも踏まえ、今回については2年とするところです。それ以降に関しましては、次の市長選挙で選ばれた者が改めて検討する方が良いと考えています。

お手元の資料の表紙に、令和7年度から令和8年度の2年になっている趣旨は以上のとおりです。内容については、資料に基づき、担当から説明したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局

「資料1 教育大綱改定のポイント」及び「資料2 教育大綱案」に基づき説明。

○山本市長

首長としての私の思いについては、主に教育大綱案の2ページと3ページのところを中心に記載したところです。市民の皆さまは、一中校区から四中校区のそれぞれの地域にお住いと考えておりますが、どの地域に住んでいても、子ども達を含め皆交野市民です。公教育ですので、当然のことな

がら公正・公平であるべきだと思っており、校区ごとに税率が違うということもありません。できる限り機会や設備に関して、あまり差が生じないようにすべきと考えておりますが、一中校区に関しては、来年度に一貫校が開校となります。私としては、できる限り環境面で差が生じないように配慮すると共に、投資はしていきたいと考えており、本年度から順次始めています。

教育の部分に関して、小中一貫教育自体を否定するつもりは当然ないですけれども、そのため小中一貫教育の手法は活かすという記載をしているところですが、それにより小中一貫校の建設につながる、小中一貫校が建設される、と思われるのもいかななものかと思っています。

施設一体型小中一貫校に関しては、建物の建築のみで1㎡50万円ほどかかっており、今回の一貫校は約1万6,000㎡ありますので、建物だけで80億円ほどかかっています。当然のことながら、除却しないと建替えできませんし、今ある残りの小学校、中学校の建物に関しても除却をしないと補助金に影響が出てしまい、壊すためにも多額のお金がかかってしまいます。また、単に壊して売却では市民感情的にも厳しいので、跡地利用についても必要になります。

本日、大阪市内にてルクセンブルク大公国のパビリオン館長と改めて協議をしてまいりました。ルクセンブルク大公国のパビリオン部材をもらい市内の学校跡地に再建築するという事で協議をしてきましたが、当然、跡地活用に関しても多額のお金が必要であり、トータルでは一貫校建築で100億円程度、これは交野市だけが高いというわけではなく、隣の寝屋川市も同程度の費用が掛かっているという事実があります。

それを二中校区、三中校区、四中校区、各校区で100億円ずつ、一貫校を整備することは、全く現実的でなく、あまりにも過大規模になってしまうと考えており、現状の児童生徒数からすると、まずは、築40年から60年の学校施設であることから長寿命化改修をすべきと考えており、2ページと3ページの記載としたところです。

皆さまからのご意見等ございましたらお願いいたします。

○村橋教育長職務代理者

本日は、ご多用の中、総合教育会議を開いていただいたこと、また、日々、学校の環境整備ということで児童生徒のイスに始まり多岐に渡って整備に努めていただいていることに感謝を申し上げます。

市長の考え方をお聞きする中で一点お願いになりますが、確かな学びということを大きく捉えた時に、特に学校現場あるいは事務局にいたときの私自身の大きな課題で、クラスに学習障がいの要素を持った子ども、支援学級に在籍している子ども以外の通常学級で日々学んでいる子の中に2～3人は支援が必要な子がいましたが、どうしても支援員の配置が府単費では足りない。必然的に市単費でお願いするところが出てきますが、そういうあたりで、支援教育に手を差し伸べていただけたらありがたいと思っています。

○山本市長

本市においては、小学校1年生から3年生、うち1年生に関してはもうすでに少人数教育ということで30人以下学級の導入を始めており、今後拡大していく予定です。文部科学省の補助金や、1クラス何人といった見直しも含めての議論となりますが、毎年2年、3年と上がっていきます。そこも含め、予算の目途がつかましたら、併せてハンディキャップのある子どもたちへの配慮を含めた支援教育の充実にも、当然のことながら注力していくべきとは考えているところです。

○甲斐委員

いつも教育行政にサポートいただきありがとうございます。

基本方針の1番、最初のところで「小中一貫校の建設を進める予定はありませんが」という記述がありまして、これは私も他の校区との公正性や公平性、財政面など色んな意味で市長と意見が一緒ですが、ただ、今まで市や教育委員会の主導でこの学校の準備をしてきた教員の方や、今後ここに通われる児童生徒さんの思いからすると、ちょっと良くない学校に通うのかなみたいな、後ろめたさみたいなものが感じられてしまうとすごく残念なことだと思うので、この市長の思いは皆で受け止めて、もう少し違った表現ができないかとの相談です。いかがでしょうか。

○山本市長

ここに関して、これまでの経緯で考えると、小中一貫校に関しての反対が強く、私が市長に就任した経緯もありますので、そういった方々の思いについても否定はできないと思っています。

保護者の方に関しては、様々な受け止めがあると思いますが、実際に通う予定の子どもたちでいうと、今の中学三年生になると私たちは関係ないという子どもたちが多いとは思いますが、そうでない子どもたちからすると、小学校と中学校が一緒か別かではなく、新しい学校かどうかのところ非常に大きく、新しい学校に通いたいという意見が大半と思っています。こういう表現が出たからといって、事実として一番新しい学校に通うことになるので、後ろめたい思いを持たれることはないのかな、むしろ新しい学校で皆喜ぶのかなと、そのように受け止めています。

○般谷委員

学校教育において、全ての市民とか質の高い学びの機会、公正公平性といった流れを作ってもらえるのは、教育大綱を2年間に絞ったことで非常にいいことだと思います。公平公正といった形の中では、中学校や小学校の先生方や校長先生に話を聞かせてもらいましたが、やはり卒業していく中学3年生が何も受けられない、何のメリットもないと思っている中、なんとかしていきたいということが一つ。

それと、中学校も小学校もそうですが、色んな部分で学校の先生の負担が大きい部分を、市長の考えの公平公正の中で、先生方というよりも校長先生の話を取り入れてもらいたいということが一つ、考えていただけないかなというご質問です。

○山本市長

一中の3年生に関して、確かにこのまま卒業することになるので、公平性ということもあるとは思いますが、そもそも他の学校区については建物が直ちに新しくなるというものではないと考えています。机とイスとテレビモニターの買い替えは今年度やる予定であり、机とイスに関しては一中校区を除く学校にて夏休み中には買い替えられる予定です。そもそものきっかけとしては、みらい学園だけ机とイスを変えとなるとあまりにも不公平と考えたところですが、一中とみらい小の机とイスを直ちに入れ替えた場合、また引っ越しが発生しますので、開校に併せて導入した方が良いということになり、公平性を確保するために机とイスの買い替えを図ろうとしたところ、導入時期のタイミングにより結果として一中の3年生に受益がないということが発生したところであり、なかなかこれを是正するのは厳しいと思っています。

校長の意見に関しては、当然受け止めなければならないとは思いますが、私としてはそれだけではなく実際に通っている児童生徒の意見をしっかり聞きたいと思っています。この夏には妙見坂小学校でブランコが新しく設置されますが、妙見坂小学校の4年生の子どもたちから、私がたまたま給食を食べに行った際に頼まれたと。過去に設置されていたものが更新されずに結果的に無くなったと。実はこの事象は他の学校でも起きていまして、今日も郡津小学校の近くを私が通りかかった時に、「何でみらい小だけブランコがあって郡津小に無いのか」という話がありました。校長の意見も大事かもしれませんが、このブランコがなくなった経緯に関して私も確認しましたが、やはり校長の判断もあったと聞いており、校長だけの意見を聞くというのは子どもにとって必ずしも良いとは限らないと思っております。

本年度は、既に二中と四中の生徒会の皆さんとの意見交換を実施しまして、二中に関しては二中の建物の向かい側で、一時、開智幼稚園に貸していた土地の跡地利用に関し、二中の生徒会の意見を取り入れた整備を行う予定としています。校長だけでなくより多くの皆さんのご意見を踏まえ、学校環境の整備はハード面が大きいですが、今度も取り組んでいきたいと思っています。

○般谷委員

ありがとうございました。きっと何かサプライズをしてもらえるのかなと思います。子どもたちが巣立つときでもありますし、就職する子どももいて、そして学校が新しくなる時でもありますので、市長の任期の中で、何か残してあげることができればと思い、質問させていただきました。

○伊丹委員

教育大綱の基本方針(1)①の中で「小中一貫教育の手法は活かし」と入れていただいております。先日、校長先生とも協議させていただきましたが、交野市では長年にわたり小中一貫教育に力を入れて取り組んできて、それなりの教育的効果があがっているという評価をしていますので、引き続きより高めていきたい、高めていっていただきたいと考えております。

先ほど甲斐委員からもありましたが、その前の段落で「二度と小中一貫校の建設を進める予定はない」と記載されています。先ほどのお話を聞くと、教育大綱を2年間に変えたのも、市長のお考えをよく反映するために在任期間に限るとされたとのことでした。その点、「二度と」書かれてしまうと、在任期間を超えた内容と捉えられかねないと思うので、誤解を招かない表現にさせていただければありがたいなと思っています。

施設一体型小中一貫校の教育的効果や影響に関しては、みらい学園が令和7年4月に開校するため、実際にまだ見られていないというところもありますので、開校後に実際の様子を見ていただいたうえで、より必要な措置や施策を考えていただきたいなと思います。

一点質問ですが、市長が小中一貫校を進めない理由は資金的な面が多いように思いますが、教育効果についてはどのようにお考えでしょうか。

○山本市長

小中一貫教育について、継続はいたしますが、名称の使い方は注意すべきであり、小中一貫教育という名前以外を使っているケースも多々あります。ただ、教育大綱において新しい名称まで決めるというのは、パブリックコメントもしていない状況ですので、時期尚早であると考えておりますので、このような表現をしたところでは。

「二度と」の表現に関しましては、この言葉には「予定」が組み合わされているものであり、あくまで教育大綱の中における話であると思っています。また次の教育大綱については、選挙で選ばれた新しい市長が自分の考えに基づいて制定すればいいのかなと考えています。

小中一貫教育もしくは小中一貫校についての私の考えとしては、名称はともかく、一貫教育そのものは小学校と中学校の連携をより強化するものであり、それ自体を否定するものではないと考えています。ただし、あまりにもそこに力を入れすぎて教員の多忙化に繋がるなら話が違ってしまうし、小中一貫教育を進めるためにどうしても施設一体型または施設併設型でないといけないということになってくると、やはり本末転倒なのかなと思っています。

我が国においては、基本的には教員の免許を含めて6・3制が前提であると思っています。ただし、それは4・3・2制を否定するものではないと思っています。

交野市の喫緊の課題としましては、北河内7市の中で、中学生の学力は1番もしくは2番と確認できていますが、小学生はまだまだしんどいと思っています。アンケートの結果を見ても、勉強に対して力が入っていないと感じられる選択肢の割合が、他市の平均に比べて高い傾向にあり、家庭で

の学習習慣が定着していないところもあり、能力はあるのに活かしきれていないという課題の方が重いと考えています。

小中一貫教育もしくは一貫校の結果がどれほどなのかという話になってくると、交野市の中学生の学力を北摂の7市と比較すると摂津市以外の6市に負けている状況です。そのエリアでの1世帯あたりの所得との相関関係が極めて高い状況であり、そのこと自体はあまり良いことではないですが、小中一貫教育や小中一貫校と学力との相関関係については、あまり明確なものはないと考えています。そういった状況であるということを考えると、小中一貫教育や小中一貫校ばかりに力を入れるよりは、まず公教育としての公平性の是正や、小学校教育において家庭学習の定着が見られない状況の是正の方が、より優先度合が高いと考えています。

○長谷川委員

今回の教育大綱の案を拝見し、市長のお考えが端的に明記されていると感じました。その中で、私たちがそれを実現させたいという思いがあるのですが、特に理念の1行目に記載されている「子どもたちに質の高い教育を提供」という点は、あらゆる環境にいるどんな子どもたちにも質の高い教育が提供されるべきということだと考えています。

先ほど支援学級の話が出ましたが、令和5年から開設されている児童生徒支援ルーム「グレープ」も最近は入室希望者が増えてきていると聞いています。ただ、ハードでのお話になりますが、やはり専用の施設がないとか、今後入室希望者が更に増えてきた場合に対応に困るとかの状況が考えられますので、いろんな境遇の個性豊かな子どもたちに対応できる質の高い教育環境を与えられるように充実を図っていただけたらと思います。

また、基本方針の4番に書かれている「小学校高学年にて、家庭における学習習慣の定着」について、家庭学習に力を入れるべきではないか、という市長のお考えは私もそうかなと思います。基本方針(3)②に「家庭環境や保護者の経済的事情を踏まえた支援」とありますが、ここにもつながってくるのかなと思います。今は一人一台タブレットがありますので、是非、家庭学習に対応できるようなアプリ等の支援もできたら家庭学習の充実も図れるのではないかと考えています。

私は、教育の質の高さというのは、基本的に人との交流だと思っています。子どもたち同士、教師と子どもの交流など、人との繋がり、人との交流をもって質の高い教育と言えるのではないかとこのところもあるのですが、やはり家庭学習については、タブレットを活用したソフト面の支援の充実を図っていただければ助かるという思いがあります。

○山本市長

支援教育については、市としてはまず30人以下学級の充実を進めていき、予算面や人員面含めて、改めて検討したいと思っています。支援の必要な子どもたちへの公の支援は足りていない部分があると思っています。

家庭での勉強については、当初、学童での学習支援も考えましたが、調べる中で高学年（4～6年生）は退会していることがわかりました。学童での学習支援の問題と、児童が勉強になかなか取り組めていないという課題は別の問題になっているのかなと痛感しているところです。タブレットもまだまだ活用できていないので、特に高学年の家庭学習と学力への対策については、いろいろなやり方があると思っています。授業時間のところや来年度の予算も含めて検討していきたいと思っています。

○中山委員

最初に、基礎学力、対話力、今後の社会で必要になる力をつけるために、5教科以外の教科にも力を入れていただきたいということと、教科書に載っていることだけではなく色々なことに興味を持てるような授業を進めていけるように、先生の指導力のアップもお願いします。

教科担任制が始まっている小学校もありますが、最初は中学校のように各教科の専門教諭が教えるのかなと思っていましたが、そうではなく、例えばみらい小学校ではクラス数が増えたので、この先生はこの教科を担当するというように決めているそうです。児童にとっても教師にとっても、今のところは良い方向に進んでいると聞いています。他の学校でもやり始めているところはあると思いますが、クラス数が少ないと教科を一つずつ分けるということが難しいと思うので、任期付講師の先生を増やしていただくなどの対応で、他の学校でも教科担任制を取り入れられるようになればいいかなと思います。

小中両方の教員免許を持っている人は少ないと思いますが、先生方の指導力向上にも力を入れてほしいと思いますし、働き方改革もあると思いますので、クラブやプール指導など、外部の人に任せられるところは任せていくという方向で進めていただけたらと思います。

長谷川委員からもグレープの話がありましたが、私も見学させていただいて、なかなか場所が大変なところでやっておられるなと思いましたので、もう少し居心地の良い雰囲気に変えていただきたいなということと、学校の門をくぐれない子たちがグレープに通うということだと思いますが、他にも、教室に行けない子どものための部屋が確立されるといいなと思います。

給食の無償化を進めていただいています。加えて、安全性や栄養価の高い、質の高い給食の提供ということを考えていただけたらと思います。親としては、給食を食べてくれているというだけですごく安心していたところがありました。今回、放課後児童会でも配食サービスを始めていただいて、喜んでくれる親御さんも多いのではないかと思います。

最後に、生涯学習の方で、青年の家のエレベーター設置工事が始まりました。そこを利用している人たちはなかなか大変な思いをして活動を続けていらっしゃると思いますが、できるだけ工期が延びないようにお願いします。

今日、中会議室に入って、とても明るくて机もきれいで、前とは雰囲気も違っていいなと思いました。ゆうゆうセンターの多目的ホールをイベントによく使いますが、このように明るい照明にしていたらと思います。

○山本市長

教科担任制につきましては、みらい小学校のように1学年に4クラスあって教員が多いところはスムーズにいくのかなと思っています。課題としましては、学校によって学級数が違って、3クラスのところもあれば、現在2クラスで将来的には1クラスになる学校もあります。だからといって、それを要因として学校の統廃合をするというのは筋が違うのかなということですが、それをやるために加配教員までやるのは、それはそれで話が違うかなというように思っています。あくまで今ある学校の教育を高める手段の一つとして教科担任制があるのかなと思っています。ここに関しては、取り組むものの、慎重にいくべきところもあるところかなと思っています。

小中の教員免許が分かれているのは事実であり、資格の要件がだいぶ違うところですが、ここまできると文科省の課題となってくることから、市としての対応はなかなかしんどいところがあると思います。

クラブ活動については、各中学校を回っていろんな意見を聞いてきました。改善すべきところは改善していきますが、教員については難しいところで、クラブ活動を負担と考える方や、楽しんでやっている方など意見が様々で、そのバランスを取るのには難しいと思っています。むしろ私が交野市内で課題と考えているのが、学校によってクラブ数が違って、結果としてクラブを選択できない状況です。民間に委託すると言っても、交野の場合、体育協会という民間の団体はありますが、組織の高齢化などの課題もあり、民間の団体で受けきれないところもあって、それならば現時点では学校の垣根を超えたクラブの選択もあっていいのではないかと考えているところです。

給食については、現在段階的に無償化の対象拡大をしているところであり、今は小学校6年生から中学校3年生まで約1億2千万円で、基金の運用益約1億1千万円でおおよそ補填できているところであり、借入金利の削減も活用することでもう1学年ぐらいは拡大でき、今年度から緊急減災防災事業債を活用して校舎の借金を7割減らすという手法も始めていますので、そういったことも財源に含めた場合、更に拡大できると考えております。

給食の中身については、タブレットでアンケートを取ってみたところ、今のところあまり不満はないという結果でした。量・質のいずれもそれほど課題は無いのかなと考えており、まずは無償化の対象拡大を優先すべきと考えています。

副教科に関しては、特別教室の一部にエアコンが付いていないところがあると聞いています。現在各学校の普通教室にエアコンがついていますが、そのリース契約が数年以内に終わるので、その際には、現在エアコンが無い部屋にも設置したいと考えています。そういったところで、副教科に係るハード面の整備をしたいと考えています。また、市内の学校の備品等の一括買い替えを進めてお

り、今年度であればテレビモニターと机、椅子で、来年度にはカーテンを全て買い替えたいと考えています。他の物品も含めて、学校の意見も聞きながら環境向上に取り組みます。

青年の家のエレベーターに関しましては、確かに利用者にはご迷惑をおかけしていると思います。ただ、本来であれば、20年ごとに設備面、40年ごとに大規模改修をしておくべきであり、公共施設である以上バリアフリーであるべきであり、定期的に一部利用に影響が出たとしても、更新・改修工事をすべきと思っています。それが交野市の場合ほぼできていませんので、今後もこのような形での改修が行われることになるとと思っています。私としては、できる限り利用者の理解を得られるよう、利用者の費用負担が生じないように改修していきたいと思っています。

中会議室はLED照明なので明るく感じられます。交野市内は学校で言いますと本年度に旭小学校と妙見坂小学校と星田小学校をLED化する予定となっており、約3年をかけて市内の小中学校は全てLEDにする予定です。公共施設でLED化できていない施設についても対応していきたいと考えています。

教育大綱について、各委員から一通りご意見をいただきました。今後、議会からの意見や、パブリックコメントで市民の意見をいただいて、改定を進めていきたいと考えています。

他にご意見等はございませんか。

それでは、案件1「教育大綱について」は以上とします。

案件2 その他

○山本市長

それでは、本日予定されていた案件については終了しましたが、その他として何かありましたらお願いします。

○般谷委員

（発言取消）

○山本市長

（発言取消）

○般谷委員

（発言取消）

○市長

（発言取消）

○般谷委員

（発言取消）

○山本市長

他にご意見等はございませんか。

それでは、これもちまして、本日の案件は全て終了いたしました。

今後、各学校へのエアコン設置やトイレの大規模改修、こちらは、一部の中学校については既に着手しているところです。社会教育施設についても進めていきますし、武道館につきましてはあくまで避難所という名目にはなりますが、エアコン設置など整備を進めていきます。ただし、一方で利用されている市民の皆様にも影響を与えるものでございます。

いきいきランドについても今後改修を進めていくところですが、これまでの検討の中で3年ほど時間がかかってしまったという過去がございまして、本年度、利用者の方にはエアコンの面でかなりご不便をおかけしています。また、来年度の学校での利用については、休館日である火曜日に子どもたちに利用してもらい、休館日以外は従来お使いになっている市民の皆様にご利用してもらうという対応としました。

今後とも教育委員会のみなさんとは、様々なことについて協議調整し、市内外から選ばれる交野の教育としていきたいと考えておりますので、ご協力のほどお願いします。

それでは、これで本日の総合教育会議を終了します。

皆さま、どうもありがとうございました。

以上

本議事録は発言の要点をまとめているものであり、発言全てを記載したものではありません。